
平成 31 年度 交通に関する椿地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 4 月 19 日（金） 14：00～15：30

場 所：市民体育館 研修室

事務局：萩市商工振興課、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 7 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

(1) 資料 1 「萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針（案）について」

資料 2、3 「萩地域の公共交通の課題と将来像（案）について」

事務局：資料 1、2、3 を説明（省略）

意見交換：

参加者：まあーるバスは、30 分が無理なら、1 時間に 1 本でもよいと思う。年金暮らしではタクシーは利用できない。現状のルートは反対周りも良いという人もいますが、贅沢は言わない。

参加者：萩駅の電車は、7 時過ぎは列車があまり来ないので、跨線橋を渡る人も見られる。また、朝の 9 時 12 分のバスには、三見の人が萩駅で降りて利用している人も見受けられる。

参加者：私は、まあーるバスの時間を覚えており、場合によってはバスセンターで降りて、市役所に行く場合などの使い分けをしている。歩きたくない日は西回りで大回りして乗る場合もある。東回りと西回りを上手に使い分けしている。景色を楽しみながら乗車しており、ありがたい。

事務局：現状はご自身で車を運転している人が多いが、将来的にはまあーるバスを利用する人も増えると想定される。

参加者：ザ・ビッグでは、以前、2,000 円以上の買い物をすると、バスカードの抽選券をもらえる時期もあった（現在は無い）。

事務局：まあ一バスが30分ごとの便から、1時間ごとの便になった場合、あるいは、逆回りとなった場合、いつも利用している人は待てるだろうか。

参加者：荷物がある場合は、遠回りして利用する人もいる。待てると思う。

事務局：ザ・ビッグは、目的地なのか、あるいは樺地区の住民が市役所行く際に使うバス停なのか。

参加者：ビッグは買い物利用者が多い。また市内中心に行くする際も、市役所前で間に合わなかったときは、歩いてバスセンターまで行って、西回りルートに乗って大回りして、景色を見ながら帰ることもある。

参加者：まあ一バスが無くなることもあるのか。

事務局：まあ一バスは利用者が多く、継続の要望もいただいているので、継続する考え。今後、利用者にとって、利便性が向上するように考えている。

参加者：萩駅で列車が遅れたときに、まあ一バスに少し待ってもらったこともある。

参加者：バス停の中には、屋根がボロボロの箇所もある。町内会で対応しようにも、費用がかなり掛かるので対応できず、見てくれが悪いまま放っている場所もある。補修に関して、助成金などはないのか。

事務局：現状では無い。乗り場の環境も公共交通の中で検討する必要がある。萩市全域でみると、かなり老朽化している箇所もある。

参加者：バス停の屋根整備で占有許可だけとって、先立つものがないところ。

事務局：乗り場の環境整備は計画の中で考える。ただ一遍には解決できない。どういう手法が良いのか、検討したい。

参加者：撤去するにも、鉄骨で作られているので、経費がかかる。

参加者：まあ一バスは沖原の方まで、路線を延長すると、利用する人もいるのでは。

事務局：公共交通は本来、交通事業者が運行するものである。一方で、まあ一バスは市が事業主体で運行している。まあ一バスを運行し始めたころは、観光地を結ぶこととし、1時間で周回することを基本的な考えとして運行している。一方、交通空白地域への対応も必要であることから、1時間にとらわれず利便性向上についても今後検討したい。ただし、全ての地域を周ることはできない。利便性と観光地を回ることを踏まえて、運行エリアを検討する。運行上、どこまでエリアを伸ばすか、考え方を整理した上で検討する。

参加者：バスが通れる場所などの規制があるのではないか。

事務局：バスそのものが入れない場所もある。バス停まで距離があり、自宅から外出するが大変な状況もある。この状況を踏まえ、三見地区では、自宅から送迎する仕組みを持っている。三見地区の路線バスが通れない道では、団体連絡協議会が運行しているぐるっとバスで対応している。

参加者：将来的に、うまく運行できるよう検討する必要がある。

事務局：年を重ねると体が動かなくなる。動かなくなると更に健康を悪くされる場合もあるため、お出掛けしやすい仕組みを考える。

参加者：まあ一バスの車両は、ステップは低いのか。

事務局：低床車両となっている。

参加者：車いすでも乗れるのか。

参加者：車いすでも乗れるようになっている、車いすの方に乗り合わせたこともある。また座席的には10人ぐらしか乗れないこともあるが、詰めたら結構乗れる。

参加者：便数は、1時間で1本でもよいと思う。

事務局：運行エリアを見直して、拡大するとすると、30分の定時運行は難しくなると予想される。

参加者：萩市は若い人の働き先もなくて困る。若い人はいなくなり、地域の子供会は成り立たない状況にある。

参加者：椿地区のアンケート結果では、路線バスが行きたいところに行かないとなっているが、どういう意見か。

事務局：まあ一バスではなく、路線バスのことを示している可能性もある。

参加者：宇部の山口医大に行くのに、路線バスがない、あるいはルートがないとの話を聞いたことがある。

参加者：山口医大であれば、近鉄タクシーの宇部空港行きに乗車し、そこからタクシーに乗り換えると行きやすい。近鉄のタクシーだと、宇部空港まで 3,600 円で行ける。旧萩市内だったら、乗車することが出来る。

参加者：高齢者がまあ一バスに乗ったら、福祉乗車券などの割引はあるのか。

参加者：贅沢を言うてはいけない。300 円までの運賃であっても許せる。

事務局：利用者負担の在り方については、要検討とする。むつみ地域では、吉部からバスセンターまで 1,120 円かかる。特に周辺部は運賃がかさむ。他の地域でも、今は車を運転できる人がほとんどだが、今後の高齢者の支援を踏まえ、利用者負担を考える必要がある。

参加者：まあ一バスのエリアを見直すなら、せめて大屋のあたりまで行ってあげられるとよいのではないか。

参加者：椿地区の大屋から、笠谷などまで、臨時便でザ・ビッグを起点に周回できるような路線があるとよい。

事務局：高齢化対策が必要なのは、買い物、通院支援となる。また、様々な交通体系があり、自治会を主体とした自家用有償旅客運送で対応できる場合もある。コミュニティでの移動支援を将来的には検討する必要がある。サロンを実施するにしろ、外出時の移動手段をどのように確保するか、検討が必要である。

参加者：周辺の地区は高齢者ばかりになってしまった。

参加者：民生委員アンケートの「移動に関する助け合い」とはどのようなものか。椿地区は、助け合いが無いという結果になっている。

事務局：他の地域でも 0 票という回答結果がみられたが、民生委員の捉え方の問題もある。田万川地域だと、NPO 法人で支え合いを実施しており、民生委員の視点では助け合いとしてみてとれる。どちらかという、今から助け合いの意識を持ってもらうことを意図して、アンケートを実施している。須佐地域も高齢者を支援する NPO 法人がある。ボランティアが試験的に実施していることもあり、助け合いがあるようにみえる。

参加者：昔の方が助け合いがあった。今は隣近所と話をしないところもある。

事務局：アンケートは、移動に関する助け合いに限定している。また、椿地区の方は、まだ自分で動ける人が、他の地域に比べて多い可能性もある。

参加者：現時点は、人に頼らなくても、バスを利用して帰ることが出来る。

事務局：社会の感覚が変わっている。乗せた方も乗せられた方も気をつかう必要がある。

参加者：防長バスの時刻表の変更がある場合は、新聞広告に入っている。まあ一バスはあるのか。

事務局：時刻表はあるが、ここ数年変更がないので、問い合わせがあった際に、時刻表を渡している。またいくつかのコンビニでも、まあ一バスの時刻表を置いている。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上